



独立行政法人 国際協力機構

## FAX 送信状

(事務連絡 様式第2号)

発信日:2016年12月20日	発信枚数:2枚(本紙を含む)
宛 先: 特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会 斉藤龍一郎 様	
発信者:独立行政法人国際協力機構(JICA) 〒102-8012 東京都千代田区二番町 5-25 二番町センタービル TEL: 03-5226-8426 FAX: 03-5226-6338	
件 名: 12月12日付 FAX への回答	

平素から当機構の事業実施に協力を賜り、御礼申し上げます。  
先日頂戴した FAX へ回答いたします。

以上

cc: 外務省 国際協力局 国別開発協力第三課

モザンビーク開発を考える市民の会 御中  
No! to landgrab, Japan 御中  
ATTAC Japan 御中  
アフリカ日本協議会 (AJF) 御中  
日本国際ボランティアセンター (JVC) 御中

貴団体より当機構宛てに発出された 12 月 7 日付の緊急抗議・要請について、以下のとおり回答いたします。

JICA としても、プロサバンナ事業について様々なご意見が存在することは承知しており、モザンビーク政府に対し、現地住民の皆様の人権に配慮し、農民組織や市民社会団体との丁寧な対話を行うよう働きかけていく考えです。またこうした取組を通じ、プロサバンナ事業がより多くの現地住民の皆様の理解を得られる形で実施されるよう、一層努めてまいります。

モザンビーク政府も、農民組織・市民社会団体からのご指摘・ご意見に耳を傾ける用意があり、開かれた対話を通じて議論を深め、現地住民の皆様の生活向上に一層資する事業にしたいとの考えであり、この点において、JICA とモザンビーク政府の考えは一致しております。JICA としては、この考えに基づき、この事業を成功させるために、より開かれた、より良い対話のあり方について、皆様のご意見も伺いながら、モザンビーク政府と共に考えてまいります。

日本国内におきましても、これまで NGO の皆様方との意見交換会の場等を通じ、様々なご意見を賜ってきたところです。これからも丁寧な対話を続け、幅広くご意見を承ってまいりたいと考えています。こうした対話を通じ、プロサバンナ事業が真に地元住民に資するものとして実施されるよう、一層努めてまいります。

なお、開かれた対話促進のためにも、プロサバンナ事業に関する文書については、モザンビーク政府により公開できる文書は全てプロサバンナ事業の公式 HP に公開されており、更にそれ以外の情報・文書につきましても、市民社会や現地住民の皆様からのご要望に可能な限り対応させていただくべく共有してまいりました。今後もモザンビーク政府と協力しつつ、適切に対応してまいります。

この事業を成功させるために、現地及び日本国内において、市民社会の皆様のご意見に一層真摯に耳を傾け、より幅広いご意見を反映できる方法を検討し、より良い形での事業実施に努めてまいります。

2016 年 12 月 20 日

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)